

2022 Vol.2 へのご意見・ご感想

このコーナーでは、編集部寄せられた読者の先生方からのご意見をご紹介します。

*『VIEW next』及び『VIEW21』教育委員会版のバックナンバーは、
『VIEW next ONLINE』(<https://view-next.benesse.jp/>)でご覧いただけます。

●特集の課題整理には、小学校英語の授業の約6割を学級担任が担当し、授業時間の半分以上を言語活動に充てる割合が9割を超えているといったデータが紹介されており、小学校教員が日々研さんを重ねているのを感じました。また、中学校教員が小学校の英語教育の趣旨を理解するため、小学校の授業を見学するなどの小中連携の必要性を再確認しました。小中連携も大切で、教育委員会の役割がより重要になっていると感じます。(東京都)

●特集の千葉県習志野市の事例にあった、小学校の英語の授業を中学校の学習内容の前倒しとすると英語嫌いの子どもの増える、という指摘が印象に残りました。本市でも、中学校教員が、小学校で授業をしたり、小学校に専科教員として配置されたりしています。小中連携や、学級担任と専科教員との連携など、小学校の工夫された英語教育の状況が分かり、小学校の英語教育のよさを中学校の英語教育に反映する際の様々な課題を理解できました。(富山県)

●楽しいだけのゲーム活動や、子どもにとって必然性のないやり取りなど、小学校の英語の授業で中心となる言語活動がその意味をなしていない状況は、本市でも散見されます。特集を読み、高知県香美市教育委員会の「授業スタンダード」や、福島県教育委員会のCAN-DOリストなどを参考に、教員研修で言語活動のあり方を伝え、よりよい授業づくりにつなげたいと思いました。(鹿児島県)

●英語教育の小中連携では、小・中相互に意識のずれがあることをいまだに見聞しますが、その原因が目標と内容の理解不足にあることは明らかです。ある英語科教員が語っていた、「小学校で培ったコミュニケーションへの関心や意欲を大事にしながら、中学校では自分の気持ちや考えを伝える力を育てたい」という言葉に同感です。特集で紹介されていたように、教育委員会が間に入り、小・中が互いの授業内容に踏み込むような連携に賛成します。(北海道)

●特集を始め、連載「教育長が語る Leader's View」や連載「データで教育を読む」でも述べられていましたが、子どもが英語を学ぶ「必然性」を実感できれば、もう学習は成功しているのだと思います。ただ、授業では、友だちについて既に知っていることを、あえて英語で尋ねる場面が少なくありません。それが現状だとも感じます。(滋賀県)

●特別企画が最も印象に残りました。イェナプラン教育を初めて知り、記事を読みながらそのコンセプトの魅力に引き込まれました。イェナプラン教育の各活動は、教育の枠組みを超え、日本が本来行ってきた営みを取り戻す活動のように感じます。個人的に、日本の伝統行事が廃れつつある現状に危機感を抱いており、地域の特性に合わせた不易の部分大切にしたいと感じました。(福島県)

●連載「教育長が語る Leader's View」の佐賀県唐津市・栗原宣康教育長の記事に、大変共感しました。中学校の英語科教員の私は、毎年、スコア型英語4技能検定の結果を基に、教育委員会などと指導上の課題を分析し、授業内容や進め方について話し合っています。しかし、そうした取り組みが、市内全体になかなか広がっていきません。何か1つでも突破口がないものか、考えさせられました。(福岡県)

●連載「実践事例で見る 学びの next」の京都府八幡市立中央小学校の実践が参考になりました。1人1台端末が整備された今、教員がそれをいかに活用するかが課題です。明日からでも実践できそうな事例として、『VIEW next ONLINE』で紹介されていた授業動画が特に役立ちました。(山口県)

●過疎化が進む地域では人材不足であり、国が推奨する地域人材による部活動支援は実現が困難な状況です。その点、連載「教委がつなぐ地域と学校」で紹介された富山県下新川郡朝日町教育員会では、独自のコミュニティークラブ設立から始めており、丁寧な組織づくりが印象的でした。(北海道)

編集後記

読者から要望が多かった「働き方改革」。当初は、いかに早く帰れるようにするか、業務効率化の事例集にしようと考えました。しかし、露口健司教授の理論に出合ってから、自分自身の働き方に対する考えも大きく変わり、生き生きと編集業務を進められるようになりました。取材先の皆様からも趣旨に賛同していただきましたし、立場を超えて、お役立ていただける特集になっているとうれしく思います。(草場)

VIEWnext 教育委員会版 2022 Vol.3

2022年12月1日発行/通巻30号

発行人	春名啓紀	お問い合わせ先
編集人	田村隆憲	フリーダイヤル
発行所	(株)ベネッセコーポレーション	0120-350455
	学校カンパニー VIEW next 編集部	〒700-8686
印刷製本	研精堂印刷(株)	岡山市北区南方3-7-17
編集協力	(有)ペンダコ	
執筆協力	二宮良太	
撮影協力	荒川 潤、ヤマグチイッキ	

©Benesse Corporation 2022

※次号の発刊は、2023年4月頃を予定しています。